

法人名 横浜市

施設名 横浜市大曽根保育園

発表者名 (職名)	中嶋 明子 (保育士)
発表者名 (職名)	
発表者名 (職名)	

住所	横浜市港北区大曽根2-5-1		
TEL	045-531-0034	FAX	045-531-0125
メールアドレス	ko-oosone@city.yokohama.lg.jp		
URL			
定員	64名	職員数	35名

発表の概要・内容

4歳児クラス後半から取り組み始めたサークルタイム（こども会議）を通して卒園までに変化してきたこどもたちの姿やその経過、保育士の援助について発表します。

サークルタイムを始めた当初のこどもたちはそれぞれが自分の意見を主張していました。しかし、意見がぶつかり合う中で、「自分の思いだけでは決まらない」「自分の思いがわかってもらえないことがある」と気づきました。そこから「みんなの中で『いいよ』を見つけよう」を合言葉に自分と友だちのどちらもが『いいよ』になれるように話し合いを進められるようになってきました。

5歳児前半では、運動会に向けてサークルタイムを重ねました。その中で、運動会に向けて具体的なイメージが持てる子とそうでない子の差が大きいことに気づきました。そこで、まずは共通の体験（遊び）をしてからサークルタイムを行う取り組みをしました。共通の体験を経たことで友だちの意見を聞き、クラス全員が「やりたい!」という競技を決めることができました。

5歳児後半になると遊びの中で自然に話し合いが始まり、今まではジャンケンで決めていたことを話し合って決める姿が出てきました。以前は「氷オニとドロケイどっちにする?」とどちらかに決めていたことが、時間を区切って両方を楽しんだり、場所を分けて好きな方に参加できるようにしたりとみんなが『いいよ』となるアイディアを考えられるようになってきました。

このようにサークルタイムを繰り返し行う中で、こどもたちは自分と友だちの間に「いいよ」を見つける力を育んできました。また、友だちの意見を聞いて自分の意見と組み合わせたり、深めたりするようになりました。そうした経験を通して、自分の得意を活かしながら、自信を持って活動に取り組む姿が見られるようになりました。

保育士は一人ひとりがどんなことを考え、どのような気持ちを抱いているのか受け止め、寄り添いながら、話し合いのファシリテーターとしてこどもたちと関わるのが大切であると感じました。また、保育士はねらいの枠は意識しつつ、そのプロセスをこどもたちと共に考え、進めていくことで予想しなかったおもしろい遊びや活動につながり、こどもたちのより主体的な活動に繋がっていくことを学びました。

4歳児後半 話し合いを始めた頃の様子
～グループの名前を決めてみよう!～



親子競技についてのサークルタイム



メモ